

日本創造学会
Japan Creativity Society



JCS NEWS LETTER



研究大会雑感 - 第46回研究大会を終えて -

第46回研究大会実行委員 豊田貞光

2024年11月10日（日）久留米シティプラザで開催された研究大会は大盛況だった。諸般の事情により会場を変更し1日のみとなり、全体参加者数：44名 発表数：ポスター9件、インタラクティブ16件と小ぶりのサイズではあったが、フェロー就任記念講演において、國藤先生による「KJ法と移動大学パイオニア精神、そして先生のその後の企業人時代、大学院での研究業績、研究者育成人生」を皆が聞き入っていた。本当に創造的な生き方だと痛感。



フェロー就任記念講演での國藤進先生



右：創設間もない創造学会での川喜田二郎先生と國藤先生

メインである研究発表では、研究した内容を多くの人に見てもらう、聞いてもらえるよう、1つの会場で10個のミニブースを作り、対面による60分のインタラクティブセッション×2回、と30分のポスター発表を1回実施した。初めての運営で不安はあったが、全くの杞憂。現場は狭さがうまく作用し、ロックスターのライブ会場のごとく、観客とプレゼンターによる興奮の増埒状態。双方ほぼ絶叫。こんな大会、参加した記憶がなかった。正に、創造的空間を皆が創り出していたと感じた。なぜか、昭和の大盛り上がりQC大会を想起した。また、多くの人が投票できた古川洋章博士開発のQR方式も粋だった。



最後に学会賞授与式と集合写真をとってジ・エンド。開放的で自由度の高い久留米の町にピッタリの大会となった。

末筆であるが、今大会大幅な運営変更にも拘らず、愚痴一つ言わずに大会を仕切ってくれた井上先生、古川先生、事務局比嘉さん、そして強いリーダーシップを発揮し陣頭指揮してくれた永井先生に深謝、深謝。



第46回研究大会に参加された皆さん
最後まで熱気の中で盛り上がりました



—学会賞表彰式—
第45回大会デジポス発表賞受賞の
安松健氏(左)と豊田理事長

— 2024年度の学会賞表彰 —

【第45回研究大会発表賞(2023年度研究大会)】

研究大会発表賞：藤井賢二氏（慶応義塾大学）

研究大会発表賞：藤原由美氏（産業能率大学）

デジタルポスター発表賞：安松健氏（大阪教育大学/株エクサウィザーズ）

【論文誌Vol.27 論文賞】

論文誌Vol.27論文賞：高瀬和也氏 他（早稲田大学大学院）

小学生向け課題設定支援ツールの開発と評価

「図書室の改善」を題材としたデザイン思考の共感・問題定義プロセスによる学習

※Vol.27論文賞は2024/12/15の学会賞委員会で決定しました

【第46回研究大会発表賞】 Congratulations!

【インタラクティブ発表】

研究大会発表賞：古川洋章氏（北九州市立大学）

発表タイトル：異なるペルソナを持つマルチLLM を用いた合議制アイデア評価システムの提案

研究大会発表学生賞：熊谷彩乃氏（法政大学 専門職大学院）

発表タイトル：別領域との組合せを促す新たなアイデア発想モデルの構築

【ポスター発表】

ポスター発表賞：石井力重氏（アイデアプラント）

発表タイトル：Imagine Card 変な動きで想像力を刺激する！20の指示カード

※研究大会発表賞は2024/12/15の学会賞委員会で決定しました。表彰式は2025年度研究大会で執り行われます

樋口健夫会員が英国の創造教育研究所 Creativity in Schools Grant Award 2024を受賞

英国の創造教育研究所（GioCT:Global Institute of Creative Thinking）より著名な創造的教育活動に関して、樋口健夫会員のアイデアマラソン研究所への表彰が通知されました。

Creativity in Schools Grant Award 2024として、2000ポンドの助成金が贈られます。

受賞は、アイデアマラソン研究所が15年来、実施してきた

- ① 幼稚園向け描画教育法 「めだか」アイデアマラソン
 - ② 小学校向け創造性教育法「きっず」アイデアマラソン
 - ③ 幼稚園・小学校低学年向けロボット・プログラミング教室
- これらの実績がみとめられました。



GioCTはOECD（経済協力開発機構）とUNESCOの協力機関です。全世界からの応募に、日本からの樋口会員の実践が選ばれました。

第87回クリエイティブサロン 久留米・八女フィールドワーク2024 KJ GPT×アイデアソンワークショップレポート

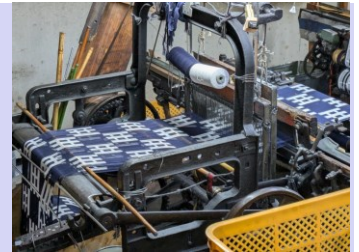
理事 安松健



フィールドワーク1件目は、久留米緋(かすり)の織元の[下川織物](#)。2代目下川富彌さん、3代目下川強藏さん、[Coppolart古賀巴](#)さんが迎えてくださった。まずは工房を見学、下川さんの説明に質問が止まらない。

お部屋に移動して、美味しい八女茶をいただきながら、下川さんの職人としての、アーティストとしての、そして経営者としてのお話を聞く。下川さんのものづくり、そして経営。伝統とは守るものではなく打って出ること、革新の連続こそが伝統なんだといつも感じさせられる。

そして、次々に出てくる下川織物のグローバル・コラボレーション案件のお話。久留米市は人口約30万人の福岡県の中核都市。その久留米市街から車で南へ約30分の人口約4万人の八女市に下川織物はある。そこに世界中から訪問者が来る、絶えず来る。八女というローカルで暮らし働き、そしてすぐそこにグローバルがある。大都市で働いているより、よほど世界が近い、八女の隣に世界があるという「ものづくり・経営」をされていることを感じざるを得ない。



午後は二手に分かれて、まずはランチを[坂田織物カフェ](#)、[とんかつ肉料理吉岡](#)で。

そして、[藍染緋工房山村健](#)、[地域文化商社うなぎの寝床](#)、[八女民俗資料館](#)を訪問。

案の定、話が盛り上がり過ぎて、予定時間をオーバー。

KJ法の探検の五原則、「なんだか気にかかることを」「飛び石伝いに」「ハプニングを逸せず」を実践。

[やかまし村のギャラリー](#)に再度全員集合。そこで、[株式会社未来工房](#)代表取締役 金原望さんに、未来工房の家づくりをお伺いする。写真では伝わりにくい、これほどの木造の家づくりみたことがないと、素人目にもわかるほどで、さらに説明を聞くと、見えない部分や、建て方、木材に対する取り組み、社員に対する取り組みなどなど、話題は尽きない。家を建てた後に建主が集うコミュニティがあるというのも聞いたことがない。その拠点の一つとしてのやかまし村のギャラリー。家づくりを通じた暮らしづくり、文化づくりを実現されている。



午後の後半はワークショップ。フィールドワークで収集したデータを、本学会会員 大塚さんらが開発された[KJGPT](#)にてグルーピング。処理速度とアウトプットのクオリティに、日本創造学会メンバーも驚愕。

そして、そのアウトプットを活用したアイディエーションを、本学会理事 [石井力重](#)先生のファシリテーションで。石井先生はいつも[スライドを公開](#)されている。

シンプルに研ぎ澄まされたワークの進め方。一般的にアイデアWSは、いろいろ工夫したアクティビティをやりがちだが、それが活発なアイディエーションにつながらないことも少なくない。必要なことをシンプルに進めるところにノウハウがあることを実感。



ワークショップ後は、みんなで夕食・懇親会@やかまし村のギャラリー

ISDC24報告

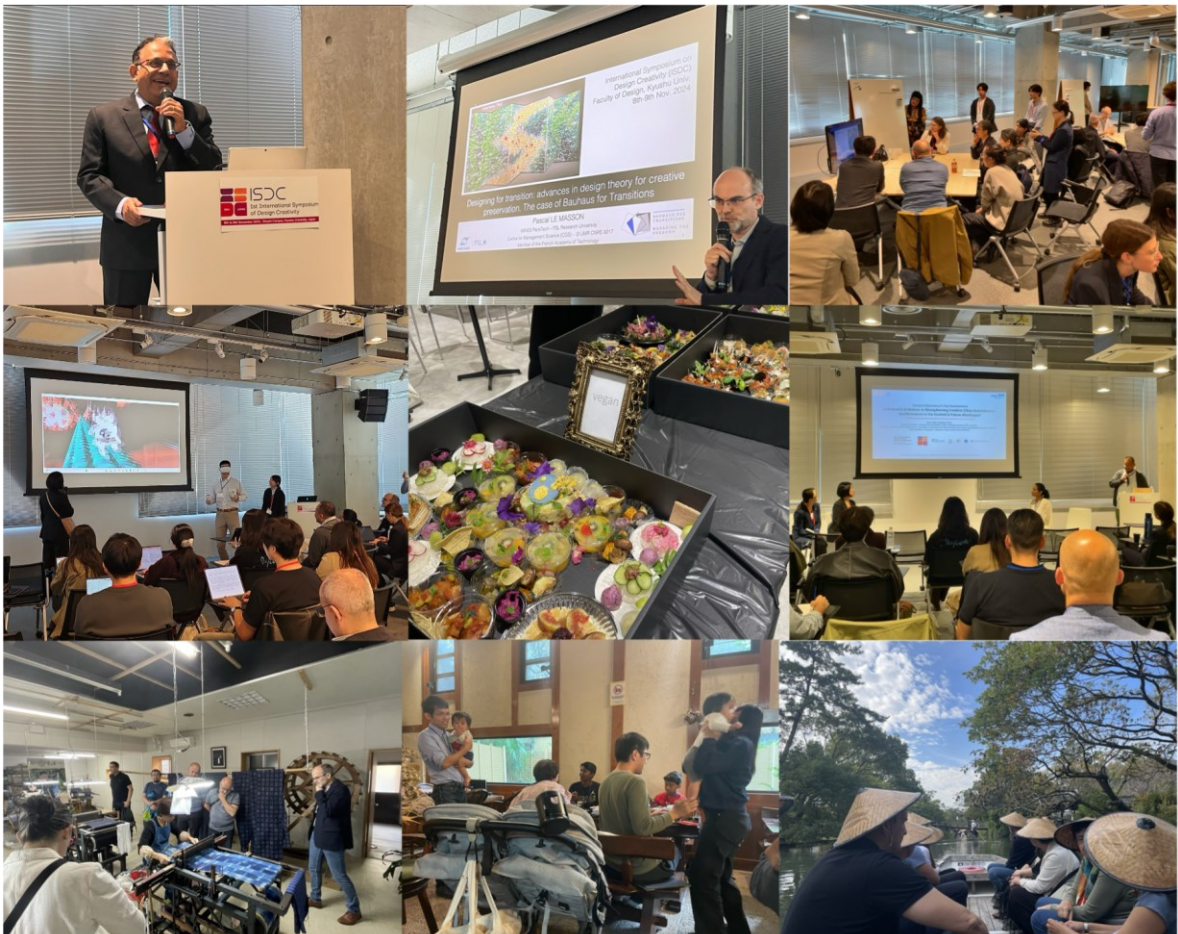
The 1st International Symposium on Design Creativity (ISDC)

理事：松前あかね

福岡は久留米での日本創造学会の研究年次大会に合わせ、2024年11月8-9日に The 1st International Symposium of Design Creativity (ISDC24) を九州大学大橋キャンパスにてキックオフしました。（主催：The Design Societyデザイン創造性SIG、後援：日本創造学会、九州大学芸術工学研究院）。ISDCは世界各地の共同拠点における文脈と自律的展開を尊重するボトムアップな自律分散型社会Decentralized Autonomous Society (DASci)を主要コンセプトとし、既存の中央集権的システムとの相乗効果を目指します。

ISDC24は基調講演／インタラクティブセッション／パネルディスカッションの3部構成により、各々、創造性研究内外からの視点／学際的視点／地域的視点から、創造性研究の「今ここ」の多様性を体現しました。洞察に富み刺激的な招待講演・発表、そして世界トップクラスのシニア研究者から学生までキャパシティ限界の17カ国からの参加者の、相互リスペクトあふれる共創的参画による宝石箱のようなシンポジウムの実現を目の当たりにし、共に企画したCo-Chairと”Fulfilled!”湧き上がる感謝で満たされました。プログラム前後には近年急速に普及した生成的創造プロセスを秘めるバイオエンジニアリングの世界へのVRツアー、聴覚エクスペリエンスを自在に創造する音響スタジオツアー、ビーガンビュッフェ、そして、今に継がれる地域伝統として久留米餅工房&柳川川下り鰻重ツアーを堪能しました。次回ISDCは2027年1月上旬にインドはIISc×IITグループでの開催を予定しています。ご関心のある方はお気軽にお声掛けください。

なお、ISDCキックオフに併せ、Cambridge University Press出版による国際ジャーナル誌Design Science（パーセンタイル98%、2023）Thematic Collectionとして Design Creativity through Multiple Lenses: Perspectives across Disciplines and Regions を立ち上げました。日本のカレンダーに優しいスケジュールを組みましたので（Extended Abstract 2025年1月31日㊞、Full Paper同年4月15日㊞）皆様ふるって御投稿ください！





2023-24年度出版の著作賞のエントリーを募集します

著作賞の応募期間は2年毎で、今回の第10回日本創造学会著作賞は2023-2024年度内に発行された著作が対象となります。募集期間は5月15日までの予定です。エントリーフォームはこのニュースレター送付時に添付します。応募の著作や資料の返却はいたしません。

(著作は希望者には1冊返却しますが、エントリー時にその旨を申し出て下さい。著作は査読者が精読しますので、新品同様での返却はできません。)

詳しくは下記「著作賞選考規程」をご確認の上、ふるってご応募下さい。

日本創造学会「著作賞」選考規程

下記の「応募基準」を満たした全エントリー著作に関して、「学会賞選考委員会」が審議して候補を決め、理事会において承認し、ホームページまたはニュースレターで公知する。エントリー期間は、基本的に2年毎とする。受賞件数は著作の質に依存するので明確には定めないが、概略、数件程度を目安とする。

[応募基準]

1. 応募者は、会費完納の学会員であること。その学会員の種類は問わない。
2. 過去4年以内に、著作賞を受賞した会員は応募できない。
3. 各応募時に同一著者によるエントリーは、1件までとする。
4. 応募著作は、単著または共著または編著・監修とする。共著の場合、応募者が第一筆者またはそれに準ずる内容を担当した筆者であることとする。編著・監修の場合、応募者が編著・監修の筆頭責任者であることとする。
5. 応募の規定年度内に出版されたISBN取得の著作であること。
6. 応募著作の内容は、創造性研究・実践に関する学術的または実践的なものとする。
7. 過去の著作を改訂した再版は応募資格があるが、増刷は応募資格なしとする。

[応募手続き]

I 自薦の場合

1. 学会事務局より送付される、エントリーフォームに必要事項を記載し提出する。
2. 著作概要をA4版2枚以内(2千字以内)にまとめたもの3部(著作のオリジナルな点を明記)を提出する。
3. 審査用に著作を3冊、日本創造学会に提出する。

II 他薦の場合

1. 他者を推薦できるのは選考委員のみとする。
2. 他薦する場合、著者に推薦者より連絡をとり、両名のどちらかがエントリーフォームおよび自薦の場合と同等の形式で著作概要を書き3部を提出する。
3. 審査用に著作を3冊、日本創造学会に提出する。
4. 他薦エントリーの場合、納本やエントリー条件を満たす書類の事務局への送付などは基本的に推薦者が手続きの責任を負う。

※自薦も他薦も、応募書類・2冊の著作・資料の返還は行わない。著者本人の申し入れがあれば、著作1冊を返還する。

[選考基準]

以下の点等に基づいて、選考する。

1. 学術的な価値の高いものであるか。
2. 実践的な価値の高いものであるか。
3. 創造性研究・実践の新たな地平を拓くものであるか。
4. 世界の創造性研究・実践に影響を与えるものであるか。
5. 受賞対象が共著・編著・監修の場合、著作中の本人執筆の割合も考慮し、評価の対象が執筆内容であるか、編集・監修の技術か等、選考委員会が妥当と思われるカテゴリーの賞を選定する。
6. 社会的評価の高いものであるか(下記の諸点に関して社会的評価がわかるものがあれば添付する)。
 - ・他者の研究に引用されている。 ・基調講演やシンポジウム等の文献となっている。
 - ・新聞・雑誌等の書評で紹介されている。 ・海外で翻訳されている。
 - ・インターネット等で言及がある。
7. 応募著作により、学術部門と実践部門に分けて選考することができる。
8. 著作賞の質を守るために、「該当なし」の結論になることもある。

新入会員紹介

氏名	会員種	所属	住所	専門分野
大輪海斗	学生会員	茨城大学教職大学院	茨城県	技術科教育

総会報告

第46回研究大会の2024年11月1日、同年9月に行われた書面による総会の報告が豊田理事長より行われました。総会資料内容は賛成多数で承認・可決しました。

2023年度決算報告

収入

科目	予算額	実績額	備考
前年度繰越金	5,324,219	6,098,166	
会費収入	1,722,500	1,989,500	正会員支払者178名 1,761,000 学生会員支払者42名 202,500 入会金18名 26,000 ※新入会者会費は入会時期により変動
論文掲載料 クリサロ収入	250,000	208,000	掲載料 正会員100,000 (3万×3名+追加1万) 学生会員100,000 (2万×4名+追加2万) クリサロ 8000
合計	7,296,719	8,295,666	

支出

科目	予算額	実績額	備考
大会費	500,000	237,788	262,212
会議費	90,000	72,350	17,650
研究会補助費	900,000	270,943	629,057
交通費	200,000	1,944	198,056
発送費	80,000	31,045	48,955
学会誌	150,000	80,000	70,000
ニューズレター・メディア	250,000	234,150	15,850
事務局費	384,000	384,000	0
会員情報管理費	250,000	249,600	400
HP管理費	130,000	113,465	16,535
事務所設備費	120,000	120,000	0
学会賞準備費	40,000	31,078	8,922
電話使用料	40,000	32,262	7,738
オンライン環境整備費	1,500,000	22,110	1,477,890
予備費	2,672,719	70,192	2,602,527
支出合計	7,306,719	1,950,927	
	収入額	支出額	繰越額
収支	8,295,666	1,950,927	6,344,739

2025年度予算

収入	支出
2024年度繰越分 (監査未終了概算) ¥6,025,739	大会費 ¥500,000
会費収入 (会員数からの概算)	会議費 ¥90,000
内訳	研究会補助費 (クリサロ/フィールドワーク新企画開催) ¥900,000
正会員202人×10000円×80% ¥1,616,000	交通費 ¥200,000
学生会員44人×5000円×60% ¥132,000	発送費 ¥80,000
	学会誌 ¥150,000
	NL・メディア作成費 ¥250,000
	事務局費 ¥384,000
新入会者入会金約20名分 (2000×15、1000×5) ¥35,000	名簿・データ類管理費 (規約、名簿、会費会計簿、ITアドレス等管理) ¥250,000
	ホームページ管理費 ¥130,000
論文掲載料 ¥150,000	事務所設備費 (光熱費、OA機器保守費、事務所使用費等) ¥120,000
雑収入 ¥10,000	学会賞準備費 ¥40,000
	電話使用料 ¥40,000
	オンライン環境整備費 ¥500,000
	予備費 ¥4,334,739
	¥7,968,739



事務局メッセージ

第46回大会の研究発表では、初めてポスター形式の発表を導入し、大変な盛況を博しました。発表者と聴衆との距離が近く、質問も容易に行えたため、研究テーマに関する深い議論が活発に展開されました。この形式により、参加者同士の交流が一層促進され、知識の共有と洞察の深化が図られたことは、学会全体にとって非常に有意義な試みとなりました。

(事務局：比嘉)



日本創造学会 ニュースレター
2024年12月発行 (4No.)
日本創造学会事務局
発行人：豊田貞光
編集担当：比嘉由佳里
〒272-0031千葉県市川市平田
1-10-2
Tel 080-3465-6152
e-mail: jcs-info@japancreativity.jp